

位置付け		令和5年度在宅医療介護連携推進事業実施計画			
対象	高齢者支援計画 R3-R5				
理念	介護保険：要介護・要支援認定者、総合事業対象者、障害者				
目標	医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心・安全に自分らしく生活ができる。希望すれば、最期は自宅で亡くなる事ができる				
中期目標	1 地域全体で在宅療養を支える体制を組めるようにする 2 在宅・施設での看取りを増やす→施設看取りについては達成 在宅での看取りに力を入れていく。 3 病院・施設・在宅の連携を深める	短期目標	1-① 医療・介護の専門職の顔の見える関係作りの体制を構築する⇒達成 1-② 医療・介護の専門職の知識・技術が向上する 1-③ 医療・介護の専門職がスムーズに情報共有できる 1-④ 医療・介護の専門職が支援に対する不安を払拭する 2-① 市民が在宅療養について理解する 2-② 施設での看取りを増やす⇒達成 3-① 切れ目のない円滑な入退院支援の体制を構築する		
場面	担当	令和5年度在宅医療介護連携推進事業実施計画 ※文末の( )は手引き項目	令和5年度評価	【プロフィール】	・認知症（連携不可な困難事例を含む） ・入退院時の連携
共通	担当	令和5年度在宅医療介護連携推進事業実施計画 ※文末の( )は手引き項目	短期目標	今後の検討事項	
共通	流山市	GISを活用した介護保険事業者情報を更新する。(ア) (事業所の変更のタイミングで都度更新するなど、更新方法についても検討する。) 医療についての情報は「ちば医療ナビ」(千葉県医療情報提供システム)を案内する。(ア)(ウ)	1-③	・GISを活用した介護保険事業者情報の更新した。(令和5年5月) ・医療についての情報は「ちば医療ナビ」を案内した。	・必要に応じて更新していく。
	全体会・流山市	現在掲載しているページを再編し、市民がアクセスしやすく、容易に在宅療養につながるができるようなページを作成する。(ア)(キ)	1-③	・事業の概要や在宅医療介護連携会議の会議録、介護と医療をつむぐ会だより等のホームページを新たに作成した。	・地域住民の在宅医療・介護へのアクセスの向上を目指し、掲載内容を随時見直す。
	流山市	在宅療養支援診療所の実態把握のための調査を実施する。(ア)(イ)	3-①	・在宅療養支援診療所の実態把握のための調査を実施中。	・在宅診療の実態調査を進め、ホームページなどでの情報提示につなげる。 ・在宅医療推進のため、医師会と連携し、さらなる取り組みを検討する。
全体会・流山市	全体会・流山市	・在宅医療・介護関係者間の情報共有の現状及び、カナミックの活用についての調査を実施。(イ)(エ) (カナミック以外の情報共有ツールの調査。) ・ショートステイ等の空き状況の掲載について、アンケート集計の完了及び利用者のニーズ調査を実施。(イ)(エ) ・R4年度連携会議内で実施した職能紹介のまとめをカナミック上に掲載する。(エ) ・研修会の内容、方法について必要時全体会等で検討する。(エ) ・つむぐ会へ気負わずに参加できるよう、開催方法や内容を専門職研修班を中心に検討する。(カ) ・つむぐ会の目的である、顔の見える関係性づくりや現場の課題抽出に対してより目的意識を強く持って実施する。(イ)(カ)	1-① 1-③	・在宅医療・介護関係者間の情報共有の現状及び、カナミックの活用についての調査を実施(第2回介護と医療をつむぐ会)し、カナミックを活用している人は3~4割程度。現状では、情報共有の方法が電話・FAX利用が多数であった。 ・カナミック活用状況：R5年度 登録者数473名 登録事業者数143名 システム作成部屋数24部屋 ・ショートステイ等の空き状況の掲載について、アンケートの回答16か所中3か所のみ。賛成2(ただし1か所はただし書きあり)反対1とのアンケート結果をもとに再検討し、現場のニーズが少なく、また、数字のみでは分からない現状があり、掲載にかかると手間と効果を考えて、取り組みの重要性や必要性は薄いと考えられる。また、ショート事業者が公表に難しさを感じている状況であるため、ニーズ調査はしない。 ・R4年度連携会議内で実施した職能紹介のまとめをカナミック上に掲載し情報共有を図った。(令和5年9月) ・情報共有システム研修会を3月に実施した。(200M開催 参加者24名)	情報共有システムの活用促進につき検討する。
		一覧表の必要性や内容の妥当性等について、アンケート調査等を通して検討する。(ア)(ウ)(エ)	1-③ 3-①	・介護と医療をつむぐ会 参集型開催・参加者 263名(第1回 55名、第2回 36名、第3回 74名、第4回 42名、第5回 56名) 基調の開催、小グループでのグループディスカッションなど、気負わずに参加できるよう開催方法や時間など工夫を重ねた。 つむぐ会アンケート満足度94.5%；第3回介護と医療をつむぐ会を除いた4回分の年度平均 ・今年度から在宅医療介護推進会議で洗い出した課題に対し、介護と医療をつむぐ会で要因を明確化し解決策を探るための場として機能した。2つの会議で双方向にやり取りすることで、切れ目なくPDCAサイクルが循環した。また、現場の実態や現状が見えたことで、計画と現場の実態の乖離を埋める一助として機能した	・顔の見える関係づくりは、おおむね達成していると考え、次年度以降はもう少し踏み込み、スムーズな連携による多職種連携を目指した取り組みを検討する。 ・開催内容やオンデマンド配信の併用など合わせて開催などの方法を検討し、質の向上を目指す
		市民公開講座(10月または11月開催予定)：テーマ、内容、開催方法を検討する。(キ)	2-①	・在宅医療介護連携に関する医師連絡可能時間一覧表の更新についてアンケート調査を実施した。(令和5年7~10月) アンケート結果から、使用しなくても連絡が取れている現状のため、医師連絡可能時間一覧表の更新なしとした。今後在宅診療の情報と合わせ、ホームページ等に掲載していく。	・今後ホームページ上に在宅医療実施の医療機関一覧などの掲載していく。 また、在宅診療の実態調査を踏まえ、今後の情報掲載の内容や更新のタイミングについて検討していく。
日常	研修・啓発部会 市民啓発班 または 流山市	おうち療養情報紙(3月発行予定)：テーマ、内容を検討する。(キ)	2-①	・市民公開講座「流山市でおひとりさまになっても最期までご機嫌に過ごす1備えについて語り合う」をテーマに市内の在宅療養に携わる医療・介護関係者によるパネルディスカッションを開催した。(令和5年11月第3回介護と医療をつむぐ会合同開始開催)参加者74人(うち専門職9人参加) 「在宅療養に携わる関係者の役割分担や受けられるサポートが分かった」「相談先が明確になり、連携が重要と分かった」などの声をいただいた。(市民公開講座アンケート満足度 84.8%) 高齢者だけでなく介護を担う若い世代も対象(～50歳代)とし、学校配信のメールを利用したが若い世代の集客にはつながらなかったことが課題。(30歳代～50歳代の参加者の割合19.6%)	・アンケート結果を受けて在宅療養の関わりかたやACPなど市民のニーズに沿った視点での取り組みの検討が必要。 ・若い世代に対する周知方法や、参集型での参加が難しい若い世代向けにオンデマンド配信など、情報提供の方法を検討する。
		依頼に基づき出前講座を開催する。(キ)	1-④	・おうち療養情報紙を発行した。(令和6年3月発行) 11月に開催した市民公開講座の内容や、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の看取りのケース紹介や、介護サービスについての内容を掲載した。	・テーマや内容を検討する。
		在宅医療介護連携の相談窓口の周知を行う。(オ)	1-④	・依頼に基づき出前講座を開催した。 「かかりつけ医の大切さと自分らしい生き方とは」をテーマに4回開催。参加者合計108名。 (令和5年5月、6月、7月、令和6年2月)	・効果的な運用に向けて検討する。 ・今後専門職向けの相談窓口について、ホームページ等に掲載し周知していく。 ・認知症初期集中支援チームの関わりについての周知方法を検討する。
入退院	多職種連携・体制構築部会 病診連携班 全体会・流山市	・入退院支援における課題を把握し現状を分析する。(イ) ・「千葉県地域生活連携シート」の活用の実態調査を実施し、円滑な連携のために必要な情報を追加した流山市版ツールの作成を検討する。(ウ)(エ)	3-①	・在宅医療介護連携の相談窓口を行った。(対応1件) ・認知症初期集中支援チームとして5件対応した。 ・認知症初期集中支援チーム検討部会を開催した。(令和6年3月)	・効果的な運用に向けて検討する。 ・今後専門職向けの相談窓口について、ホームページ等に掲載し周知していく。 ・認知症初期集中支援チームの関わりについての周知方法を検討する。
		・本人情報連携シートや急変時における対応マニュアルの作成、カナミックでの情報共有について検討する。(エ) ・「千葉県地域生活連携シート」を土台にし、急変時における関係者情報連携シートの作成を検討する。(エ) ・消防と情報交換の実施。(イ)(ウ) ・市民公開講座や出前講座、おうち療養情報紙等を活用し、市民に対しACP普及のための取り組みを実施。(キ)	3-①	・「千葉県地域生活連携シート」の活用の実態調査を実施し、円滑な連携のために優先的に記載すべき内容の検討を重ね、簡易版「千葉県地域生活連携シート」を試験的に運用予定。(令和6年4月) ・「千葉県地域生活連携シート」の試験運用の6か月後に評価、本格的な運用について検討予定。(R6 10月) ・病院相談員連絡会の開催を市主体から、各病院・施設主体へ移行し、3回参加した。(R5 8月 11月 R6 3月)	・千葉県地域生活連携シートの試験的な運用を6か月実施し、活用についての現状アンケートを実施予定。(令和6年10月頃) ・上記アンケートと合わせて入退院連携における課題や現状把握のためのアンケートを実施する。 ・病院相談員連絡会に参加し、課題の抽出を行う。 (病院相談員連絡会に参加し、認知症の方の意思決定や権利擁護に関する支援の課題あり)
看取り	研修・啓発部会 専門職研修班	・看取り支援やACPに関する専門職向けの研修(VR、Zoom)を開催。(カ) ・在宅療養支援診療所の実態把握のための調査の際、看取り支援に関する内容も含め実施する。(ア)(イ) ・在宅看取り推進のためのチームづくりとして症例検討会を開催する。(カ)	2-② 1-① 1-②	・急変時の対応の場における連携について、連携会議(第1、2回)や介護と医療をつむぐ会(第2回)でのアンケートをもとに取り組みを検討した。 ・「千葉県地域生活連携シート」を土台にし、優先的に記載すべき内容の検討を重ね、簡易版「千葉県地域生活連携シート」を試験的に運用予定。(R6 4月) ・第5回介護と医療をつむぐ会において、医療・介護・消防(救急)間で情報交換会を開催した。 ・救急情報カードは、定期的に内容の更新を行うことを促し、周知していく。 ・市民公開講座や出前講座、おうち療養情報紙等を活用し、市民に対しACP普及のための取り組みを実施した。	・急変時の対応について、次年度以降も継続し取り組む。 ・カナミックは、次年度①災害時の情報共有への活用②居宅・サービス事業所連携機能を運用開始予定。
		○介護と医療をつむぐ会を5回/年開催 市の課題を取り入れ、急変時の対応と多職種連携を中心に開催 第1回(6月)…顔の見える関係性 第2回(8月)…未定 第3回(11月)…市民公開講座と合同開催 第4回(12月)…未定 第5回(3月)…未定	2-② 1-① 1-②	・市内の特養、地域密着型特養、グループホームに施設看取りについてヒアリング調査を実施した。(第4回連携会議で報告)24施設中21施設が看取り対応可能。 ・ショートステイにおける看取りの現状につき調査を実施し、制度や今後の展望など情報提供した(第4回連携会議で報告) ・看取り支援やACPに関する専門職向け研修を開催した。(11月 映像を見ながらオンラインで行う施設看取りに関する研修)参加者12名 ・看取りに関する症例検討会を開催した。(令和6年1月 2月)参加者65名(1月32名 2月33名)	・在宅看取り症例検討会の開催方法をつむぐ会や地域ケア会議との連携も視野に検討していく。 ・ACPの普及啓発を検討する。
その他	流山市	・東葛北部5市会議への参加(ク) ・病院連携窓口一覧表の活用について検討する。(エ)(ク)	広域連携	・東葛5市会議はオンラインで開催され、2回参加した。(7月、1月) ・病院連携窓口一覧表の活用について検討中。	・広域連携会議への参加。